

令和7年度 徳島県立男女共同参画総合支援センター運営委員会議事録

- 1 日 時 令和7年6月23日(月) 13:30～14:40
- 2 場 所 パーク テレコメディア 学習室
- 3 出席者  
委 員 藍原理津子、安藝公美子、内山 眞弓、笠井 美里、坪内奈津子、  
中野 由梨、坂東 良美、福島 陽子、峯 尚徳  
事務局 男女共同参画総合支援センター所長、男女参画・青少年課長ほか

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委員長・副委員長の選任
- (4) 議題
  - 1) 事業実施状況について  
令和6年度事業実績、令和7年度事業計画
  - 2) その他

【事務局から資料等の説明】

【質疑概要】

委員長 令和6年度の実績と令和7年度の事業計画の説明がありましたが、ご意見、ご質問等がございましたらどうぞ。

委員 センターの令和7年度の事業費が300万円弱増額されているかと思うんですけども、一部、男性のための法律相談部分ということで増額があったかと思います。その他の部分で何か増額要因がありましたら教えていただけますか。

事務局 ネーミング・ライツの契約期間が5月末までとなっておりますので、名称変更による看板の変更とか、リーフレットを新しく作成する費用、その他ホールの機器の修繕も予定しておりますので、その分が増額となっております。

委員 3ページの6のフレアキャンパス講座ですけれども、(1)の講座実施状況の共催について、令和4年度が41回、令和6年度が78回と回数が増えているんですが、受講者数があまり変わらないっていうのは、形態が変わったとか、講座の内容が変わったとか何か理由があるのでしょうか。

事務局 確かに講座の数は増えていますが、共催事業で受講者数が、1桁台の場合もあります。男女共同参画に関わる講座で共催してもらえないかというお話は増えておりますので、受講者数が少ない事業もありますが、共催する団体が増えていることに伴い、講座の

数は増えております。

委員 全体的に利用者数がちょっと低迷しているかなというところで、主となる利用者の年齢分布みたいなものは把握していますか。

事務局 別添参考資料の1枚ものの④フレアキャンパス講座アンケート回答状況を見ていただくと、やはり多少、年齢層が高めになっていると思います。

講座につきましては中高生向け、子供さん向けのものも実施しております。私どもとしても若い方をどのように呼び込むかという点は課題になっております。昨日、性暴力の關係の講座を実施したんですけれども、そのときは30代から50代ぐらいの方が多かったかなという印象はあります。

委員 ちょっと質問させていただいたのは私も40代なんですけど、子育て真っ只中で、平日は仕事があり、休日は子供のことに追われて、講座の内容を見て興味があっても、リアルに参加する、自分のことに費やせる時間はほぼ皆無に等しくてですね。だからといって興味がないわけでもないっていう方は、他にもたくさんいらっしゃるんじゃないかなと自分の周囲を見渡しても思います。せっかくいい講座、興味のある聞いてみたいと思う講座がたくさんあるのに、参加者が少ないのはもったいないなというのが正直な感想です。自宅にいても議事録が読めるとか、ユーチューブで配信が見れるとか、広く全員にとってわけにはいかないと思うんですけど、例えばメール登録とか会員登録された方限定で発信できるようなものとかあったりすると、内容だけでも勉強、知っていただくことが可能になるんじゃないのかなと。リアルに参加する時間の捻出が難しい立場としては、感じました。

事務局 例えばズームもあると思うんですけどそれは時間が限られるので、アーカイブのようなイメージですかね。

委員 昼間は、子供たちがスポーツをしているので、ずっとどこかの施設にいて家にはいなくて、今、スマホで見えたりはしますけれども、子どもが寝静まった後に見えとか、そういうのがあると、学習したいなと思う方が、耳にしたり目したりっていう機会が少しでも増えるんじゃないかなと感じました。

事務局 どこまでできるかというのはありますが、ちょっと研究させていただきます。ありがとうございます。

委員長 徳島大学のAWAサポートセンターでシンポジウムを年1回しています。平日ということもあってやはり会場に来られる教職員、学生は少ないんですが、あとでオンデマンドで配信すると、実際に会場に来られた方の何十倍もの参加があります。とてもいいと思うんですが、そのために業者さんをよんで、音声の録音とか録画が大変で、その予算にも苦勞するといったことがあります。

でもあとで見られるということが目標ですので、そういうことができたらいいなと思

ます。

委員 女性協議会では、ズームを活用しています。今、委員長がおっしゃったように、本当に経済的な部分もあったりするので、どこがそういったことをしているのかということに注目していただいて、ご活用いただきたいと思っております。大変ズームは評判がいいです。

昨日、ここでデジタル性暴力の講座を受講しました。本当にまさかというふうな内容の話がいっぱいあり、本当に参考になりました。それで皆さんも、いろんな講座があるので、それがどういうものなのかというのを知っていただいて、是非受講していただきたいと思っております。

委員長 デジタル性暴力については、オンデマンドや動画配信などによって、若い人にも見ていただけたらと思います。

委員 2点ございます。私も県の施設運営をさせていただいていく中で、やはり講座の数がすごく多いのと、どういうカテゴリーなのかというのがちょっとわかりにくい部分があって、よく似た講座に見えてしまったりします。そのあたり、カテゴリーというかわかりやすい何か仕分けといたしますか、そういうふうな発信の仕方をしていただけたらなというのと、若い方に、どういうふうに情報発信されているのか、現状をお聞きしたいと思います。

あと、私どもも悩みなんですけど、主催事業で理系女子応援セミナーというのがあります。こちらもずっとされているのだと思いますし、私どものあすたむらんどでも参考にさせていただいているんですが、そもそも理系女子、リケジョっていうネーミング自体が、おかしいなというふうに、常に思っているところではあるんですが、男の子は参加できないのというのがあるので、男子も参加できるようにはしています。このあたりの工夫点ですとか、今実際に、こちらのセンターでお困りだったりすることがあれば共有していただけたらなと思います。

事務局 まず講座についてですが、考え方としては、女性の視点で考えよう、理工系女子を応援しよう、子育ても自分の時間も楽しもう、生涯にわたる健康づくり、それから一般的な誰もがいきいきと輝く社会に、法律を学ぼうなどというように、柱を決めて講座をしております。我々が主催でやっているもの、それから、団体さんが実施主体のものに共催したりする中で、重なったりする部分はあるんですけども、いろんな団体さんと共に活動を広げていくという意味では、重なっていてもありがたいのかなというふうに思っています。

ただ、先ほどご意見もありましたが、なかなか若い世代の方、働いておられる方々が講座に参加しづらいということがあるかもしれないので、開催する時期や曜日なども検討の余地があると思っております。効果的な人集めについては、我々も悩んでいるところがあります。

昨日のデジタル性暴力講座のようにテーマを特化したようなものだと、団体さんに周知

していただいたり、教育委員会を通じてチラシをまいたりとかいろんなことはするんですが、今まで来たことのない方に参加いただくことが難しい状況です。本当に人集めというのは難しいと感じており、皆で解決していかねばいけないなと思っております。

リケジョについては、理工系女子の数がやはりまだまだ少ないということ、実際に理工系に触れる機会が少ないから応援していきましょうということで始まっております。

確かに農業系女子とか理工系女子という表現は、なくならなくてはいけないものだと認識していますが、広報するときにはこのような表現を用いてさせていただいております。今年度は日亜化学工業、徳島大学にご協力をいただいております。

こちらもまた検討課題にさせていただけたらと思います。

委員長 徳島大学のダイバーシティ担当の部長が、阿南高等専門学校の校長先生と先日お話しをしたときに、小中高生の特に女子に理系に進んでほしいという思いで「リケジョ」という表現で打ち出したところ、人が集まらない、敬遠されてしまうという話が出ていたようです。リケジョということではなく、最初は男子も女子も、というふうにして講演会とかをしないと人が集まらないということでした。

私たちもいろんな会をしているけど、人を集めるということはとても大変で広報も大変難しいと思っておりますので、そういうことも考えていきたいなと思っております。

委員 5月から徳島市消費者協会の会長をさせていただいてるんですけども、それまでは徳島県消費者協会の常務理事をしておりました。

県から、徳島県消費者大学校の委託事業をやらせていただいて、今年度からちょっと変わったパンフレットを作ったんです。それは、講師の顔写真を入れて、ちょっと有名な人を、浜口千波先生とか、ゴミ収集をしている漫才師とか、3人ぐらいを目玉にして、大幅に変えたんですね。そうしたら今までは本当に受講がなくて、消費者協会の各団体の方に私のほうから電話をして受講お願いしますみたいなことを喉が枯れるほど募集をかけないと集まらなかったんですけども、この顔写真を入れて、ちょっと興味があるような講座にしたら、100人以上あつという間に集まりました。今までは必死で集めて25~6人でした。

ちょっと私自身びっくりしまして、担当がすごく頑張ってくださいったんですけど。消費者大学校だから、幅広いですけどね、消費生活に関わるすべてのことが大丈夫なので。でも、顔写真とちょっと興味がある、ちょっと有名な人というので、こんなに集まって、仰天したのでご披露しました。

委員 参加者を増やすという点において、今SNSの利用が進んでいるんですが、男女共同参画におけるフレアキャンパス事業に関わる団体さんにおいて、あまりSNSの活用がされていないという状況を見ているようなところなんです。

私どもの方でも、県の事業を通して、相談事業をさせていただいておりますが、どこを見たらどこの相談につなげることができるのか、自分の興味のある情報につなげることができるのかということがわからないという相談が非常に多いんです。こういう内容の講座をやっているところがないかといった質問とかが最近もすごく増えているので、情報発信

していく側にも、情報発信の必要性、すごくあるのかなと思っています。

利用状況についてですが、展示ギャラリーのところには利用者数が入っていないんですが、アンケートの結果等も使っていないようなので、それについてお聞きします。こちらが展示をしているものについての発信であったりだとか、またこの展示内容が適切なのかどうかのアンケートであったりだとか、来館につながるような取組をされていたりだとか、ニーズに込えているものであるかというように把握されているのか、分析などされているのであればお聞きしたいです。

事務局 展示ギャラリーには人が常駐していないので、人数のカウントはしておりません。ホームページも例えばこの期間にこの展示をしていますみたいなことは挙げられていないので、それは検討していきたいと思います。

委員 こちらに来たときにはいつも展示を拝見しているんですけども、是非アンケートをとっていただいて、ニーズに込えていただけるようにしてもらえると嬉しいなと思います。

委員長 私もAWAサポートセンターの取組がうまくいっているのか分析したりニーズを調べるとというのがとても難しいなと思って、どんなふうに分析したらいいのか、いつも悩んでいます。

委員 私も団体の運営をやっていますが、やっぱり人集めは難しいです。新聞等に掲載されている講座とかイベントで、パネルディスカッションなどに参加している人がどのぐらいの男女比で出ているのかっているのを必ず見えています。やっぱり男性が多いんですよね。全然女の人がいなくてかそういうのをよく聞いています。

理系女子のことで、最近聞くのは、ロールモデルみたいな人がいないということ。目指しなさいと言われるけど、身近なモデルになる人を紹介して欲しいということを知っています。例えば日亜化学の女性の技術者の方とか、阿南高専の先輩女性の方とか、大学の先生もいらっしゃるし、そういう人たちとコミュニケーションをとれるような企画をされているんだと思うんですけども、やっぱりそういうチャンスをどんどん増やしていくしかないのかなという気はします。いろいろ打ち出す中でも、潜在的にもっといっしょと思うんですけども、そういう場合に、届くような形にすることが一番難しいんですけども、その辺を工夫していかないといけないんだろうなという気がしました。

事務局 ありがとうございます。おっしゃるとおり、理系女子応援セミナーでも先輩方の仕事の内容を聞いたり、交流できるような機会をつくっております。セミナー後のアンケートでも仕事のイメージが沸いたという記載もありました。参考にさせていただきます。

委員 保育士で今一番問題になっているのは、保育士の不足です。それと以前から問題になっているのは、親が仕事が忙しいのはわかるんですけども子どもをほったらかしにしているネグレクトとかがすごく増えています。ご飯を食べさせずに連れてきたり。子育て

でなく、親育てに関する講座がほしいかなとふと思っています。

最近では育児休暇を取る男性が多いので育児休暇をとって、お母さんが仕事を確立できているからお母さんは仕事に行きなさい、お父さんは育児休暇を取りますっていう家庭も、たくさん出てきました。でもお父さんはどうしたらいいかわからない。子供はよく泣く、こんなときにどうしたらいいかっていう相談が現場ではいっぱいあります。今までは女の人が家事、子育てっていうのが多かったんで、やっぱりそれが潜在的にどこか残っていて、お父さんからのいろいろな相談がきます。時代が変わったんだろうと思うんですけども、追いついていけないといけないのに、それができない状況なんです。預けたら保育園が何でもしてくれると思われるところは、昔からあるんですけども、

委員 親育てについては、二、三十年前にも身近な高等学校長から聞いたことがあります。親がめちゃくちゃだと。永遠の課題なんだなと、今思い出したところです。

委員 子供がこういう状況だからこうしようかって保育園でもこうしますねって言ってもそれが通じない。受け取り方も価値観も、おかれている立場も違うんで、もう今一番保育園は多分みんなの先生もすごく悩んでいると思います。保育士も少ないし、困っているんです。

委員 そこに経済格差とか、非正規の女性が関わっているとか、そんなのはないでしょうか。

委員 それもあると思うんですけども、やっぱり自分の両親とか周りの人とかに、言えないし、言わない。プライドが高いんです。生活に比べてプライドが高いというか、自分が困っているはずなのに困っていないって周りに見せるんです。そこをどうにかしたいと思って、いろいろと四苦八苦してるんですけども、どこから解決していいのかわかりません。

委員 これについては、この会でというよりは、また他の関係機関と話を進めていく必要があると思います。

私が知っていることでいえば、子供の扶養手当を親が自分のために使う。それはやっぱり自分が親からそういうようにされていたから、そのお母さんがやっぱり自分の子どもにネグレクトしているんですね。

今、孫育休制度というのが九州電力から発信されて、全国の自治体企業とかに、すごく広がっています。それこそおじいちゃん、おばあちゃんが子育て、孫育てに関わっていったら、みんなが助かるし、孫にとっても、本当に親だけでなく、多様な人から育てられるいい点は、あると思います。非常に助かっているっていうのがあるので、これは県としては進めていただきたいと。私は参画会議の中で、お話しさせていただこうと思っていました。

ネグレクトの問題については、いろんな関係機関がありますので、そちらの方ともまた協議しながら進めていかないと、結果的に子供が被害をうけているところなので、それは

やっぱりだまっていたらいけないことだと思います。

委員 こうしたら、と助言しても、親御さんの方が、いやうちは違うんです、ネグレクトではございませんと言って、逆に怒ってこられるんです。

委員長 非常に難しい問題ですだと思いますので、またいろいろと議論していきたいと思えます。

委員 他県においても人集めについては、苦勞されているとは聞いております。オンラインでの発信というのが、家で自分の都合のいい時間に見られるといいのかなと思います。やはり皆さん忙しくて来たくてもなかなか、やっぱり目の前の用事とかに追われてしまつて来られない場合もあると思うので、何かできたらいいのかなっていうふうに思っております。

委員 4ページのまなびーあ徳島の手帳ってというのは、どういったものですか。

事務局 県の方でまなびーあ徳島という講座のグループ情報がありまして、当センターの講座もその中に位置付けられています。講座を受けていただいたら手帳、シールを差し上げるといった提携をしております。

事務局 男女参画学部の認定単位として配布しています。シールが集まったら表彰を受けられたりもします。

委員 それは普通学校単位と互換性は。

事務局 ありません。一般教養的なものとなります。

委員 6ページの10番の子育て支援業務ですが、例えば、ここに子どもを預けてお母さんがレストランで食事したりとかってというのはあるんですか。

事務局 基本的に当センターの事業に参加していた場合に利用していただくことになっております。

委員 ベビー用品の貸し出しとかはしていないのですか。最近私の妹が帰省したときに1週間だけベビー用品が必要なときがありました。結局インターネットで探して買えましたが、県でそんなレンタルがあればいいなと思いました。

事務局 勤労者のネットワークの方で何かしているかもしれませんが、詳細は今わかりかねます。

委員 どこまで行政が踏み込むかっていうところはあると思うんですけど。今はそのバランスも難しいなと思いつつ、でもやっぱり、ちょっとのときに何か気軽に、簡単に、利用できるようなのがあって、そこを入り口にいろんな講座もやっていますみたいにできたらいいのかなと思います。どの年代のどのカテゴリーの人がいるかで、その人たちがどこにアクセスしてくるかっていうのを、どれだけ拾えるかと。その辺、予算の問題もあると思いますが、なんかちょっとできないかなっていう気は、少ししました。

事務局 子供用品のレンタルについては、やはり縦割りとなっていて、こちらの方ではなかなか難しいんですけど、例えばその窓口にチラシを置いていただくということはできるのかなと思いましたので、検討させていただきます。

委員 チラシ、リアルな紙ってすごく大事だと私は思うんです。それとは別にオンラインでそこにアクセスしてきた人に対して、パッと思ったときにさっとスマホを出して、探さないですか。チラシをもらってもそうはならない。写ったものがすぐ買えるみたいな。チラシは大事な媒体だとは思いますが、プラスアルファ何かできたらいいなと思います。

事務局 本日はお忙しい中、ご出席くださりありがとうございました。また参考になる意見をたくさんいただき、重ねてお礼申し上げます。

どこまでできるかというのはあるんですけども、ぜひ参考にさせていただいて、今後活かしていきたいと思っております。

今後も男女共同参画の推進に取り組んで参りますので、皆様方におかれましては、一層ご指導を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。